

## 救急科

### 【一般目標】

広島大学医学部医学科の臨床実習Ⅱで広島市立広島市民病院救急科を選択した学生は、医師として将来にわたり必要となる救急診療の基本的知識・技能・態度を習得するために、ER型救急外来において各種の疾患・病態を経験する。

### 【到達目標（行動目標）】

#### 知 識

- (1) 救急患者においては、気道、呼吸、循環、および意識レベルを速やかに把握し、緊急性を判断する必要があることを知る。
- (2) 次に挙げる疾患ならびに病態の診断と治療について述べる。
  - ①心停止、②重度外傷、③重症熱傷、④重症急性中毒、⑤ショック、⑥意識障害、⑦脳血管障害、⑧急性呼吸不全、⑨急性心不全・急性冠症候群、⑩敗血症・多臓器不全、⑪その他の救急疾患
- (3) 次に挙げる手技の適応と合併症を述べる。
  - ①気管挿管、②気管切開、③気管支鏡検査、④中心静脈路確保、⑤血液浄化用ブラッドアクセス挿入、⑥除細動、⑦胸腔ドレナージ、⑧胃洗浄、⑨腰椎穿刺
- (4) 人工呼吸管理の目的を知り、その適応・病態による換気モードの選択・合併症・VAP予防・離脱に必要な実践的知識を述べる。
- (5) ショックの分類と、それぞれに対する治療法の実践的知識を述べる。
- (6) 循環管理およびそれに必要なモニターに関する実践的知識を述べる。
- (7) 重症患者における体液電解質・栄養管理に関する実践的知識を述べる。
- (8) 各種血液浄化法の適応・管理の実際・合併症・離脱に必要な実践的知識を述べる。
- (9) 画像診断（単純写真、エコー、CT、MRI）の中で、救急患者で見逃してはならないポイントを述べる。
- (10) プレホスピタル・ケアの重要性を知る。
- (11) 災害医療の基本を知る。

#### 技 能

- (12) 迅速かつ適切に救急患者の受け入れ準備を行う。
- (13) 意識レベル（JCS, GCS）を判定する。
- (14) 気道閉塞を診断する。
- (15) 換気不全・酸素化不全を診断する。
- (16) ショック状態を速やかに把握する。
- (17) 救急診療に必要な臨床検査を立案できる。
- (18) 次に挙げる疾患ならびに病態に対する診察、検査、治療を見学・補助する。
  - ①心肺停止、②重度外傷、③ショック、④意識障害、⑤重症急性中毒、⑥脳血管障害、⑦急性呼吸不全、⑧急性心不全・急性冠症候群、⑨敗血症・多臓器不全、⑩その他の救急疾患
- (19) 次に挙げる手技を見学する。

- ①気管挿管，②気管切開，③気管支鏡検査，④中心静脈路確保，  
 ⑤血液浄化用ブラッドアクセス挿入，⑥除細動，⑦胸腔ドレナージ，⑧胃洗浄，⑨腰椎穿刺  
 (20) 適切な症例の提示を練習する。  
 (21) 病院実習中の救急救命士との交流を通じ，プレホスピタル・ケアの実際に触れる。

**【注意事項】**

1. 指示を待たない.
2. 好奇心を持つ.
3. 質問をする.
4. 走っても転ばない靴を着用する.
5. 一刻でも早く救急患者（急変患者）に接触する態度を身につける.

**【実習の内容】**

1. 種々の内因性疾患についての学習
2. Primary ABCD についての学習
3. 救急外来受診患者を通じて 問診・身体診察。診断に関し学習する。
4. 院内急変への対応についての学習
5. 初期研修医などと行動を共にして，臨床の感触を経験する.
6. 研修医早朝勉強会への参加
7. 院内外での研究会などへの参加

**【週間スケジュール】**

1. 週間スケジュールは，特にない.
2. 実習初日はオリエンテーションを行う.
3. 午前 8 時 30 分集合
4. 当直実習は，希望に応じ随時.

**【評価】**（配点計は 100 点）

評価項目	配点（点）
好奇心をもって，積極的に実習した	20
フットワーク軽く動いた.	20
診察・評価能力を習得するよう努力した	20
コミュニケーション能力の向上に努めた	20
謙虚な態度で実習した	20